

平成30年度 児童いきいき放課後事業における教育環境等の充実について(案)

児童いきいき放課後事業の現状について

	内 容	備 考
内容	大阪市内の全ての市立小学校において、平日の放課後・土曜日・長期休業日などに、放課後の活動場所を提供	実施校数:29年度 289校
対象児童	小学校1年生～6年生	在校生数:113,551人(平成29年5月) 登録数:63,311人,一日平均参加数16,678人(平成29年4月)
定員	なし	当該校区に居住する全ての小学生が参加登録できる
開設日	平日の放課後、土曜日、長期休業日(夏休み・冬休み・春休み)	休業日:日曜、祝日、お盆、年末年始等
開設時間	月曜日～金曜日:授業終了後～18時 短縮授業日:13時～18時 始業式、終業式等:11時～18時 土曜日、長期休業日:8時30分～18時	一定数以上の希望があれば有料で19時まで時間延長を実施 ※10人以上を条件とするいきいきが多い ※時間延長実施箇所数:29年度 34校
利用料	無料	安全に関する経費として、児童1人あたり年額500円が必要
運営	大阪市から運営・管理委託(公募)を受けた団体が実施校ごとに設置されている「いきいき活動運営委員会」と連携して地域の実情に合わせて運営	2018年度～20年度:財団法人、株式会社、NPOなど、7事業者に委託予定

現在の児童、いきいきの状況

<いきいきの参加状況>

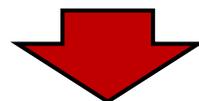
- 低学年が主な参加者
- ・1～2年生:参加者の約60%
- ・1～3年生:参加者の約70%

<児童の自主学習の状況>

- 児童の学校教育課程外の学習時間が短い
- (生活実態調査の結果)

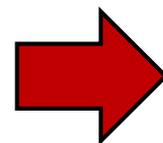
<いきいきの時間延長の状況>

- 時間延長の実施校が少ない
- ・平成28年度:31校
- ・平成29年度:34校



平成30年度からの「新たないきいき」=教育環境等の充実にむけて

低学年のうちから
自主学習習慣の定着をめざす
一方、多様な利用者ニーズにも対応



- <1>宿題機能UP
- <2>読書環境UP
- <3>時間延長箇所数UP

<新たないきいきを支える実施体制の確保>

指導員の確保 → 充実した指導 → 「指導力UP」



平成30年度からの「新たないきいき」=教育環境等の充実にむけて ②

<いきいきにおける宿題の課題>

- ・活動室が狭い
- ・児童が多く勉強に適した環境でない
- ・最初に宿題をするよう促しているが、いきいきによってばらつきがある

<読書環境にかかる課題>

- ・学校図書館がいきいきであまり活用されていない
- ・いきいき活動室の図書があまり更新されていない

<いきいきにおける時間延長の課題>

- ・時間延長の要件を10人以上としているいきいきが多いため、実施校が少数
- ・時間延長中におやつが出ない



課題解決に向けた具体的取組みを基本的に全校で実施

<1>宿題機能UP

① 自主学習に適した学習環境の整備

- ・自主学習に適した部屋の確保に努める。
- ・宿題の徹底に向けたマニュアルの作成(全校で「宿題タイム」の設定などいきいき内のできる宿題は終わるよう指導。)

② 連絡帳を自己チェック

- ・児童に宿題の範囲・内容を確認させながら宿題の徹底を図る。

<2>読書環境UP

① 学校図書館でしっかり読書

- ・すべてのいきいきで学校図書館を活用
- ・静かな環境で読書や自主学習の実施。

② 「いきいき文庫」でいつでも読書

- ・地域図書館より、新刊等児童の関心を引く図書を活動室内に配架。
- ・定期的に図書を入替え、読書への関心の継続を図る。

<3>時間延長箇所数UP

① 5人以上の希望で時間延長を実施

- ・時間延長の実施要件を5人以上とすることにより、時間延長実施校の拡大を図る。

② 延長時間中におやつを提供

- ・希望により事業者から有償でのおよつ提供に努める。
- ・提供にあたってはアレルギー等に留意。



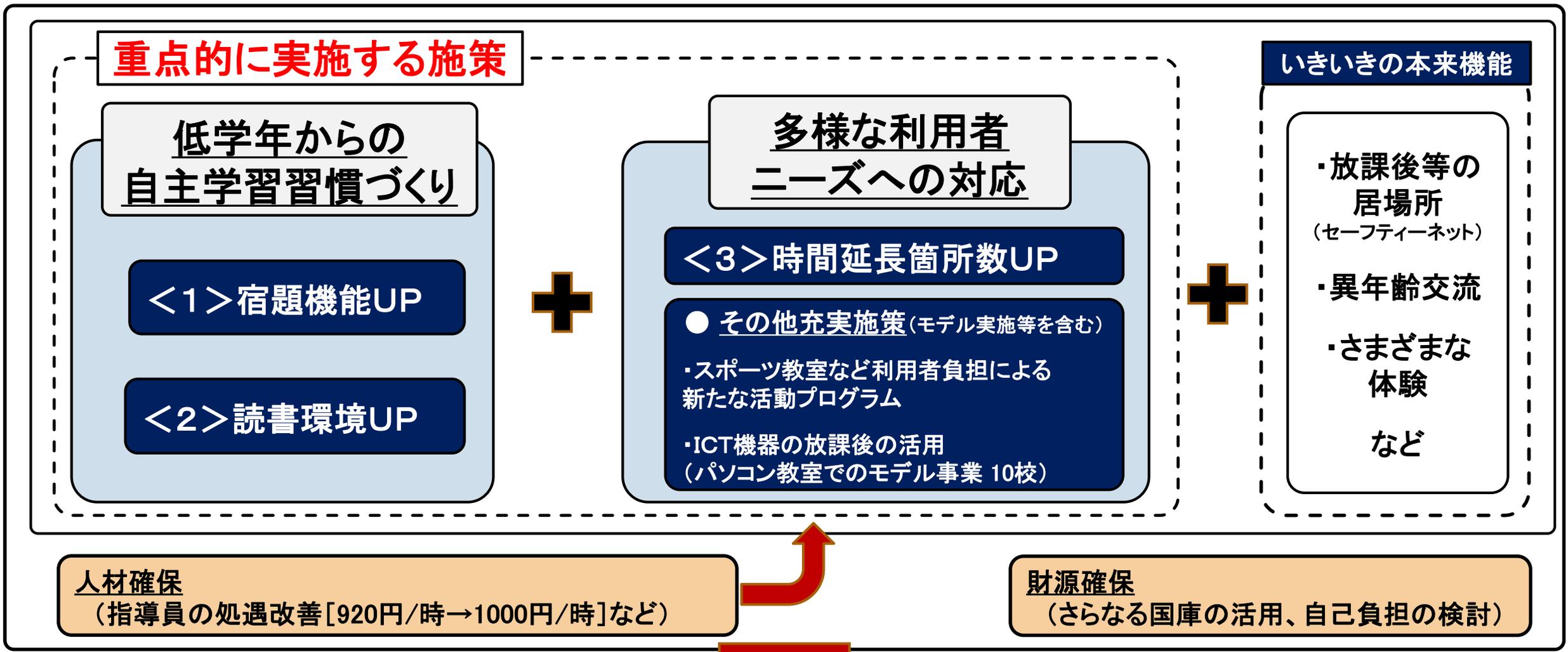
低学年から宿題を通じた
自主学習習慣づくり



読書習慣づくり
学力をしっかり下支え



多様な利用者ニーズ
にも対応



「新たないきいき」 30年度予算要求額: 38億2200万円 (うち市費: 25億3200万円)
29年度予算額: 34億5300万円 (うち市費: 22億8800万円)